統計解析手法(初回除(<)

(2) 連続型

累積分布関数

Flx)がちからもたからも連続なても (上の F(x+S) = fim +(x-S) = F(x))

連続確率变数

· F(x) が連続 · F(x)の導関数 F(x)= dF(x) · f(x) ~ 存在

 $F(x) = P(X \leq x) = \int_{-\infty}^{x} f(t) dt$

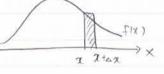
f(x):確率密度関数 f(x) ≥0, 500 f(x) dx=1

《 (新育文型 の石質率分布でしか)区別)

ことで役又小なるペンのに対して、

 $P(x \le x \le x + \delta x) = f(x) \cdot \delta x$

て近り以できる。図のように、連続では



確率·面積 離散はf(でえ)= þ(メニオル)

fix) rid P(x=x)を表すない (ex) P(x=a)=0, P(a<x<b) - F(b)-F(a)= faxidx)

2.2 期待值 化分散

(1) 定義で性質

。期待值

 $E(x) = \begin{cases} \sum_{i=1}^{\infty} \alpha_{i} f(\tau_{i}) & : 離散 \\ \int_{-\infty}^{\infty} \alpha_{i} f(\tau_{i}) d\tau & : 連続 \end{cases}$

母集団分布の期待値ルで表現

· 分散

受組分布の分散: σ²で表現 標準備産 σ= √var(x) を合わせた

。性質

Q E (a+&x) = a+&E(x)

@ E(a) = a

3) E(x+Y) = E(x) + E(Y)

(4) var(a+lx) = l2var(x)

6) Varia) = 0

無次元量(異種。デタや、同種の多数のデータを収較するかに役立)

(2)標準化

標準化变数
$$Z = \frac{Y-M}{\sigma} \left(a = -\frac{M}{\sigma}, \theta = \frac{1}{\sigma} \times (1 \times 2)$$

(E(2) = E[a+ex) = a+eM = 0.

(VOV (Z) = Var (a+ex) = $\ell^2 \text{ Var}(x) = \ell^2 \sigma^2 = 1$

9.3. 为变量分布

- 。同時確率分為七周辺確率分布
- ex) 1枚のコインを3回投げ、表H,裏丁でする。

標空間 D= {HHH, HHT, HTH, THH, HTT, THT, TTH, TTT}

確率变数× 最初。2回 *表。回数

(x=スN(x=y)の存率

Y:最後9 /1

午かり 同時領等

HHH 735 7=4=2, HHT 135 2(=2 8=1

f(0,1) = p((x=0) n(Y=1)) = p(TIH) = V8

f(1,1) = p[(x=1)n(x=1)] = p(HTH) + p(THT) = 218.

17/	0	1	2	
0	1/8	1/8	0	2/3
1	1/8	2/8	1/8	4/8
2	0	1/8	1/8	2/8
	2/0	4/0	2/1	1

離散確全受数: 火.Y.

 $f(x_1,y_1) \ge 0$, 某事行元 $(y_1) = 1$, $g(x_1) = 1$, $g(x_1) = 1$, $g(x_1) = 1$, $g(x_1,y_1)$, $g(x_1) = 1$, $g(x_$

周四時率密度関数

2.4 共分散×相関係数

(1) 夹分散

×、Yがそれぞれの期待債 Mx, MYから、ちいに関連しながらばらっく程度

いいしいり つるーメンけったいか同場局

<0→ // 友村傾向

= 0 → 上記の関係ない





(2)相関係数

・共分散は、変化の切っますので単位、異なる2つの共分散は比較できない。

·相関係数 P

 $= \left[\left(8x \cdot 8x \right) = E \left(\frac{0x}{x - v x} \right) \left(\frac{0x}{x - v x} \right) \right] = \frac{0x}{x} \frac{0x}{x} \frac{0x}{x} = \frac{0x}{x} \frac{0x}{x} \frac{0x}{x}$

・ チロー 一 ララ 1 の人直をとる

1に近いはで強い正の相関、一に近いはで強、東、相関、0:無相関

もし、サ:エレなら×とYは緑形関係による(Y=a+ exで表さいよ)

相関係数は火火イ。1次結合,強工を測了尺度

2.5. 条件付石框率分布

(1) 新科尔维辛分布

3回2个2按付3例(好2.3.)

$$\frac{3[2]}{3(7)} = \frac{2(7)}{2(7)} = \frac{1}{2(7)} = \frac{1}{2(7)$$

12)独立

事象A、確率が事象Bに影響されない、つまりP(AIB)=P(A), 座にP(BIA)=P(B) も成立するからは、P(AOB)=P(A)P(B) こってき、事象AとBは独立であるという ◆) 従属

雄率份布、持急

。共分散化独立

独立(解散): fr:、yu) = g(xx) h(yu) このでき、 E(XX) = デラ スをおけいなが) = デラでありましいりになる) = ディをりなが) ・ テもりはが) = E(X)E(Y) 5、て共分音文 cov(X,Y) = E(XY) - E(X)E(Y) = ロ・ やっておよ。

メインが仕立→共分育をつ、相関修数=0 必をは成り立たない

独立: 变数問: 関連がない → 確率分布 そのものへ仮究 共分首外・相関係取: 平均的な性質→ 確認分かが決まる量が反定

多3、邓军率分布

- ,観測データ=標本 ← 母集目:確率分布によって表現
- 。確率分布を特徴がける実数 = ハ*ラ×-タ
- 3.1. 韵静称李变数,稻辛分布
- (1)ベルヌーイ言式行 ー まだ分布のかない
- /の結果が2種類 (ex) 「成ID(5)」,「失敗(ト)」)
 - 回 確率 p= P(s) 13-完→ P(日=1-P
 - 图 就行的独立

```
いま、 S \to \chi = 1, F \to \chi = 0 も 3 3 \%.

バルターイ分布 f(\chi) = p^{\chi}(1-p)^{1-\chi} (\chi = 0, 1)
                    E(x) = P, Vov(x) = P(1-P)
      くくはは日の意式行のみ、か回かこなうで)
```

(2)二項分布

ベルマーイ試行をり回行う。

 $S: \alpha B$, $F: n-\alpha B$ 起 t= 273. $(\alpha = 0,1,...,n)$ = 項份 $f(\alpha) = n (\alpha p^{\alpha} (1-p)^{n-\alpha} (2=0,1,...,n)$ ハプスタンカンカット 明治 B(カット) で表すこともある

エf(x)= (p+1-p)"= | ← =項定理 1")

E(x) = nP, var(x) = nP(1-P)

ご)n回,独立作就行。→ 介回,成功確率 px, (n-1)回,失败确率 (1-4)*~ 最初の久回が成功力が、P(s,s,···s, F,···F) = p*(1-P)***

文目の成功はどこで起さてもよい = 組み合わせの(x そかける

ちたて広用

(3) ポアソン分布

二項分布: かいて $NP = \lambda \left(- 定 \right) \times \lambda < . \quad N \to \lambda , \ p \to \lambda , \ \left(稀 \to 現象 \right) で も か は、 n (x p^x(1-P)^{n-x} = <math>\frac{n \cdot (n-1) \cdot \dots \cdot (n-x+1)}{x!} \cdot \left(\frac{\lambda}{n} \right)^{x} \cdot \left(1 - \frac{\lambda}{n} \right)^{n-x}$ = $\frac{1}{x!} \lambda^{x} \left(1 - \frac{\lambda}{n} \right)^{n-x} \cdot \frac{n \cdot (n-1) \cdot \dots \cdot (n-x+1)}{n^{x}}$ $\frac{1}{\sqrt{3}} \int_{\Delta} \left(1 - \frac{N}{2}\right)_{N-\Delta} = \frac{1 \cdot \left(1 - \frac{N}{2}\right)}{1 \cdot \left(1 - \frac{N}{2}\right)} = \frac{1}{\sqrt{3}} \left(1 - \frac{N}{2}\right)$

3 = 2 x ticz, N = 12. Am (1-7) = lim (1-7) = lim (1-1) = e-7 : $n \to \infty$, $P \to 0$ o 标限で、 $n \left(\frac{1}{x} P^{n} \left(\frac{1}{1-P} \right)^{n-n} = \frac{\lambda^{n} e^{-n}}{x!}$ オペティンタルク数の法則

ポアリン分布: チュ)= ピーカスズ

ハペラメータ:カートの(カ)を表すとともする。 E(x)=カ, var(x)=カ

不言るの気明に主に人変もよる.

日稀少现象,生起回数

回到着数

DATE

ex)交面事故のは間で走といる回数

1年間至8766時間に分割一事取が起きる心をかべり又一人就行 7月間内に複数回生起一合割を増やしベルターイ記行 しんなりを解りなくか事やす

かつのり二項分布=ホックン分布

3.2 連結确等數の確等節

(1) 指致命

ポアリン分布:無い現象がある基準時間に起こる回数、

お稀り現象の起むまでの時間(何5時間)をもてする(ポプリン分布でメララモ) = もまでに1日も現象が起きていない: マ=0

累積確率家後関数 トト) = p(x≤t) = 1-e-7t 指数分布: f(t) = d = n e - n t

11°7×7: 7 = 1/7, var(x) = 1/2

121 正規分布

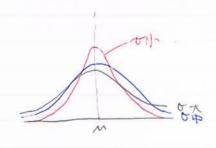
三項的布。れ→ののできの極限。合布 正規的布。 f(t)= (2-M)2

 $(1^{\circ}7\times79: M, \sigma^{2} \rightarrow (1, \sigma^{2})) \quad E(X) = M, Var(X) = 0^{2}$

· 標準化 Z - X-A ~ NO(1) - 標準工規分布

E(x) = E (N+02) = N+ DE(2) = M , Var(x) = Var(N+02) = 02 var(2) = 03

・ルを中心に対称。



对新州下的

- 1) p [M + a = X) = p [x = M a)
- Q D [X \ M + a] = D [M a \ X \)
- 1 P(M-a = x = M) = P(M = X = M+a)

・
$$Y = Q + Q \times \sim N(Q + Q M, Q^2 \circ 2)$$
 (下下 $Q \times \sim N(M, Q^2)$)

:) $Y = \frac{Y - Q}{Q}, |\frac{dY}{dy}| = \frac{1}{|b|}$
 $f_{Y}(y) = f_{Y}(\frac{y - Q}{Q}) = \frac{1}{|2\pi|} |f_{1}|_{G} e^{x} p \left\{ -\frac{(y - q - Q M)}{2 e^{2} \sigma^{2}} \right\}$

• いま $P(Q = x \leq Q)$ をおめたい、 $P(Q) - P(Q)$

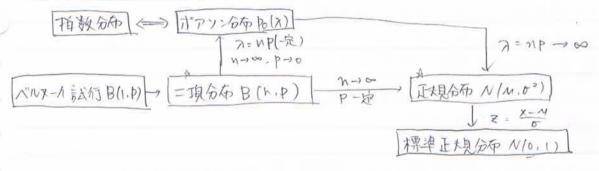
標準正規分布を利用 $\frac{q - M}{\sigma} \leq \frac{x - M}{\sigma}$

Aにそかららうれたとも X=02+M

$$Z = \pm 1 \rightarrow X = M \pm 0$$
 " (0 範囲' $P(M - 0 \le X \le M \pm 0) = 0.68 (= \frac{2}{8})$ $Z = \pm 2 \rightarrow X = M \pm 20$ " $2 \in N$ " $P(M - 20 \le X \le M \pm 20) = 0.95$ $Z = \pm 3 \rightarrow X = M \pm 30$ " $3 \in N$ " $P(M - 36 \le X \le M \pm 20) = 6.49$ $CF)$. 偏差値 $M = 50$, $O^2 = 10^2 1 = i B \otimes 10^2 1 =$

(3) 外变量正规分布

33. 主要な確率分布



4/20

&4 大数 9 法则 c 中心極限定理

4.1 たビシュアの不等式

確率分布の期待値、分散しかわか、ていないてき、を重率変数のとりう3値(区間)

に対する確率の値の見当をつけたい。

(確率分布に(花なしない)

4zti/27·不等式 P(IX-MIをKO)至1-1/2

ex) k=2 $P(M-20 \le X \le M+20) \ge (-\frac{1}{23} = \frac{3}{4} = 0.75$ k=3 P $(M-30 \le X \le M+30) \ge 1-\frac{1}{32} = \frac{8}{9} = 0.89$

証明(X連続 ntt)

σ² = S-ω (x-N)° f(x) dx } S(x-N)° f(x) dx ≥ S(κσ)° f(x) dx = (κο)° P((x-N) ε κο)

震義)のMとびによって、Xの筋の状態が示される。

*② Xかでのような石な率分布であるうで成立し、 |X-ル| * KOの確率の下限を与える

③大数の(弱)法則を導くこてぬでする

標本的分型外間を拍定するときに利用

4.0 大教《法具》

P(|x-M|≥ko) € ko = c r ther. P(|x-M|≥c) € 0/c2

Xの標本(X., Xu)があり、この平均×を考える。(特許も均)

*E(x) = M, var(x) = 02 ax = E(x) = M, var(x) = 02 xx13

P(|x-11 = c) = (0/4) 1-100

大教の活則

Pim P(| X-M = C) = 0

又は外に確率収束する

→ 十分な大きさの標本で調べかは、女集団の特性を知ることができる

シ 統計的推測の理論

和りてれば正規分而を何定できる

4.3、中心杨限定理

E(x) = var (x) o 6 0 5 to 10 to には西耳できない

Xの標本「X1, ··· , X1)があり、 E(x)=ル, var(x)-の Dim IXi ~ N(nM, no2)

厳密に表すと、 lim p(a = 五xi-nm = b) = so 与 exp(-等)dx (其中化)

400期待何以期待何如如

E(EXi)=nM, Var(IXi)=no2 標準化すると、(マi=Xi-M → E(zi)=0, var(zi)=1)

IXY-NW = IXY

ここで、色なの展開式 ex= (+ 2+ 2+ 3+ + --- のスト・ヒメを代入

Mx(t) = F(etx): モーメント見関数 + 放 = |+ t E(x) + t > E(x2) + ... + tol.

E(2x) = 0, E(2x2) = Var(2x) - (E(2x)) = 1 tiks.

Mzi(t) = 1+ + + + + ... $\exists t \in M_{x_1+x_2} \mid t = \exists \{e^{t(x_1+x_2)}\} = \exists \{e^{tx_1}, e^{tx_2}\} = \exists \{e^{tx_1}\} \exists \{e^{tx_2}\} = \exists \{e^{tx_2}\} = \exists \{e^{tx_2}\} \exists \{e^{tx_2}\} = \exists \{e^{tx$

= 14x, 1t) . Mys 1t)

1.7. MIRALE) = { MEXITO) } = (1+ + + + +) ~

七つ 前にかきからるで、

 $M_{\Sigma S \lambda} \left(\frac{t}{m} \right) = \left\{ M_{S \lambda} \left(\frac{t}{m} \right) \right\}^{\lambda} = \left(1 + \frac{t^{\lambda}}{2n} + \cdots \right)^{m} = \exp \left(\frac{t^{\lambda}}{2} \right)$

標準正規分為。モーメント日関教

火 分布とモーメント母関教はし対しい対応する

1、五尺 は標準正規分布

(x~N(N.O) -> Mx It) = exp) ut + 02 til

=> IXi~N(nm, no2) Et&3

于一人以民国教育和肾原物 するてもならかるらいい

(双)二项分布→正规分布

B(n.P) fx = n(x p" (1-p) " ->(

X~B(1.P)

成功回数: IXx, E(IXx)=np, Var(IXx)=np(1-p) 中前回かた。

中心極限定理か). lim <u>TXX-nP</u> ~ N(0,1)

こうで必然は的相談の準備

```
多5. 標本分布
(1) 母集团、標本
```

5.1 母集団 r標本 (cf 1.2)

(悉首調查) 言周首方法 ①全数調查 ②標本調查

無作為抽出

安身 標本抽些 標本 統計的推論

母集团:母集团分布,母数(n'ラx-A) (母平均从,安分散 o²+s c°)

標本:標本分布,統計量(標本平均,標本分散など)

一母数推定。重要な手がかり(of.大数の法則)

標本を要約し、母教の推定に使われるもの

標本(x,,..,xn) n 関数 t(x,,...,xn)

親測值(x1,,,xn)のも(x1,,,xn):統計値。 一統計量は計算方法

(2) 統計量

5/13

代表的为母数: M, 0° 一標本字均又,標本分散s°

以下.標本(x1,-,水)は母集団分布(u,o*)に従う独立な確率変数

。標本平均

 $\overline{X} = \frac{X_1 + \dots + X_m}{n} , \quad E(\overline{X}) = E\left(\frac{X_1 + \dots + X_m}{n}\right) = \frac{nM}{n} = \boxed{M}$ $Var(\overline{X}) = Var\left(\frac{X_1 + \dots + X_m}{n}\right) = \frac{1}{n}, \quad Var(X_1 + \dots + X_m) = \frac{n\sigma^2}{n^2} = \boxed{\frac{\sigma^2}{n}}$

。標本分數

 $S^{2} = \frac{1}{n-1} \left\{ \left(x_{1} - \overline{x} \right)^{2} + \cdots + \left(x_{n} - \overline{x} \right)^{2} \right\}$ $E(S^2) = 0^2$

で期待値が安数へものも、不倫梅定量で、う

小5°: 不偏分散

記明略

11-1:自由度(自由に重かける変数の数)

 $(\chi_1 - \overline{\chi}) + (\chi_2 - \overline{\chi}) + \cdots + (\chi_n - \overline{\chi}) = 0 \text{ fig. } \forall_n = \S(\chi_1, \dots, \chi_{n-1})$

よって自由度はれー1

(3)標本比率

2値確率変数「の」」の場合で、「モとった回数が久回です、たとする。

→ 二項分布 (cf. 3.1.(2))

標本比率(確率): p= 否で考える

 $E(P) = E\left(\frac{X}{N}\right) = \frac{1}{N}E(X) = \frac{NP}{N} = P$

 $\operatorname{Var}\left(P\right) = \operatorname{Var}\left(\frac{X}{N}\right) = \frac{1}{N^2} \operatorname{Var}\left(X\right) = \frac{\operatorname{NP}\left(1-P\right)}{N^2} = \frac{P\left(1-P\right)}{N}$

V 7.7

(4) 統計量の標本分布

リメト、母集団が正規分あに従うとして、次の分布を扱う。

- 。標本平均(p° ~ 既知) a 分布一正規分布
- ·標本分散の分布 一 ×2分布 ・では大体を切りかり
- ・ でが未知っときの標本平均の分布→七分布
- 。標本分散比の分布→下分布 以下されるを詳れくみないと、

S.O. 標本平均 n分布 (6°改知)

x ~ N(M, 02)

・正規分布,再生性にかって、

Ci E定数列 t This I Cixi ~ N (ICIM, I (CiO)2)

(cf. 3.2.(2)でのY=QX+&の一般なじ)

人 (指域,精度) 折りか

· X~ N(M, 02) + 5° 改物的主视分布

(X11x1~xnn 標的和)

- ・ここでの分散は精度を表すータルが増加すれば、又はから打正確な推定値。
- ・推定精度(分散)は、標本数に対してがのオーダーでしか減少にない。

经研究由日 造れなかっ

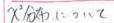
· 又も正規分布→単独のXx よりもすぐれた推定値

5.3. 標本分散の分布

のでは不明の場合があい → 分散の推定値の精度を知りたい。

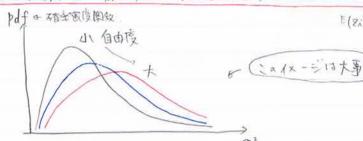
 $S^{2} = \frac{1}{n-1} \sum_{i} (x_{i} - \overline{x})^{2} \qquad (n-1) S^{2} = \sum_{i} (x_{i} - \overline{x})^{2} \qquad (*)$

250



標準化 Zi = メルール ~ N10,1)にかて考える X2= Zi2+ Zi2+ ス2+ とするて、

確率変数 x2~自由度 ko x36布 x2(k) (x定義), E(x2)=k, vor(x3)=2k



E(2x')=1 +1). S(x)= 1 x = 1 (x>6) (P(i) = 500 e-x 28+1 dx (810))

$$\chi^2 = \sum_{i} \mathcal{Z}_{i}^2 = \sum_{i} \frac{\left(\chi_{i} - \mu_{i}\right)^2}{\sigma^2} \qquad (*) \ \ ^{(i)} \ \ ^{(i)} \ \ ^{(i)} = \sum_{i} \frac{\left(\chi_{i} - \overline{\chi}\right)^2}{\sigma^2} = \chi^2 \ .$$

1. (n-1)52 へ x2(n-1) (x1-x)+ + (x1-x) から自由度 (説3:11-1) (x1-x)から自由度 (説3:11-1) (x1-x)から自由度 (説3:11-1) (x1-x)から自由度 (説3:11-1) (x1-x1)から自由度 (記3:11-1) (x1-x1) 1. E(s²) = 0° E(x²) = 0° · (n-1) = 0° o 不偏推定量 > 见分散。推定:利用

女 3.4 6°未知《te》標本平均的統

XへN(M, 芸) 標準化 Zi = x-M

0°13不明,揭后太为...→ 標格散 5° で代替させた方 規東的

。七統計量

 $t = \frac{\overline{x} - M}{\sqrt{5^2 m}} \times t = \sqrt{13} N/0, 1) = 17 \sqrt{2} h \sqrt{3} m$

·標本平均·標本標準備差のtra分布

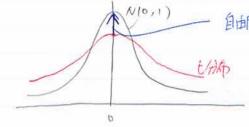
x2(n-1) - @

3): X x 52 17/12/1

220.

七分和

一般に ① そへかしい ② Y~ガ(ド) ③ マ, Yは独立 へとき



自腹→のでもあけん(のハ)に近かく、

し付か ①カ→の⇒ 5° = 0° (なりれた値をとる)

、 Elt) = Oで対称、分布, 西花が N(0,1)まり厚い

※七份布は小標本。厳密は標本份

$$JX = \frac{1}{\sqrt{5^2 N}} \sim t(n-1)$$

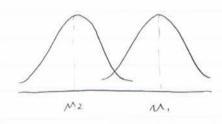
☆標本平均の分布のまとめ

100	是回	正规分布	非正规后布
既	大	0	(5)
知	1	2)	6)
末	*	3)	2
和	1	9	a

- ①,② $X \sim N(M, \frac{C}{N})$, $Z = \overline{X-M} \sim N(0,1)$ ⑤ $X \simeq N(M, \frac{C}{N})$, $Z = \overline{X-M} \simeq N(0,1)$ (②:中小極限定理 [: 13) ③ ② $X \simeq N(M, \frac{C}{N})$, $Z = \overline{X-M} \simeq N(0,1)$

- ◎、◎ → 又のおかは治からない

5.5. 2 標本問題



第19標本(x1, Xn, 5 ~ N/M1, 07) 12 (1/1, ..., Ynz) ~N(N2, 52) XI XII, KI Ynz HATET

$$S_i^2 = \frac{1}{n_i-1} \mathbb{I} \left(\chi_{\widehat{\Lambda}} - \overline{\chi} \right)^2 , S_3^2 = \frac{1}{n_3-1} \mathbb{I} \left(Y_{\widehat{J}} - \overline{Y} \right)^2$$

$$F = \frac{\binom{n_1-1}{5}}{\binom{n_2-1}{5}} \binom{\chi^2(n_1-1)}{n_1-1} \binom{n_2-1}{5} \binom{s_2^2}{n_2-1} \binom{n_2-1}{5} \binom{n_2-1$$

③): 5,2,5,21日 在江

E(+) と Vor (F)は参表で

330.

FAA

一般にDU~~(ki) QU~~(kz) 图U,Vは独立のでき

F= T/k1~ 自由度(k1, k2) a F/a : F(k1, k2)

$$E(E) = \frac{k_2}{k_2 - 2} \quad (k_2 > 2) \quad \text{vor}(E) = \frac{2k_2^2 (k_1 + k_2 - 2)}{k_1 (k_2 - 2)^2 (k_2 - 4)} \quad (k_2 > 4)$$

 $1 \times \pm 11$, $= \frac{5.1/6.2}{5.1/6.2} \sim \pm (M_{1-1}, M_{2-1})$

5/28

多6八ペラメータの推定

/灰談模定(多7) 計算方法

- ·ハラスータ指定のための標本がらました統計量: 指定量一石在率変数 計算他一統計值:拍定值一実現值
- · 点推定: バラメータを1つの値で定みようとする方法

区間推定: バラX-タか存在お区間を推定了3方法

/版談 模定 2

一会場につかな

```
6.1 点推定。拍定法
```

拍定量には、 ^ (ハット)をつける。 ex) ふ, or

(1) モーメントラ去

メットングモーメント ミ E (xk) によって推定する方法

·期待值: N= E(X) , X= h 5 xx 1= 1) 推定 -> D = X = x = n 5 xx

・ 分散: $\sigma^2 = E(x^2) - \sqrt{E(x)}$ プー デース π に π 指定 π の π の

いるは不偏ではない

メニッチ込は確率分によらない。

水(いより精度)

文 の基式は
/正規分布は、かetc

母的布主义(要とする。 ハラメータもの(定数) と表現する

同時確率分布 f(x, xi, x, x, 10)

(パラメータの国定したときにない、ていっ値をとるを経済)

220.

(ス,,・・・,スい):観測リニとい異なった値をとる確率変数

いき、1組の観測値(x.,..,x.)が得られた(所与)

(ス., - , ス.) はもう確率変数ではなく、その実現値 , (ス., - , ス.,) でもたらした のは様々な値が考えられる。

こり考し方は

likelylaced コ Oを変数と考えると、

~ 人(0: x1, - xn) が単にし(0)

得られた観測値して、、一、ない、確率なめによってどう変化するか示す関数

0=00×とき くちゃ同じ梅をとるが確定分面ではない、俺ではなび小の手愛になる)

L100 (x, ..., xn) = f(x, ... xn : 60)

(10),大小関係企重要

同い観測新果に対すし上(ロイ) > L(ロュ) なら、ロニロ、から得られた標本を表示る方が

もっともらしい

maximum likelyhood ML

最大法: 抗度関数を最大にするのを自とする。

最大推定量(推定值)

DATE

$$L(0)$$
 の最大化 $\frac{d(16)}{d0} = 0$
 N^{5} フェータ か δ_{1} 、 δ_{1} の δ_{1} の δ_{2} の δ_{3} 対数変換 単調増加変数 δ_{3} か δ_{3} が δ_{3} の δ_{3} の δ_{3} が δ_{3} が δ_{3} が δ_{3} の δ_{3} の δ_{3} が δ_{3} が δ_{3} が δ_{3} の δ_{3} の δ_{3} の δ_{3} が δ_{3} の δ_{3} が δ_{3} の δ_{3} の δ_{3} が δ_{3} の δ_{3} の δ_{3} の δ_{3} が δ_{3} の δ_{3}

ex) 正規分布

6.2 望まい推定量の特性

· ルの推定量の候補:標本平均、メディアン、モートーー · 合· 、s*の相違

お 推定量の望まい、特性が必要

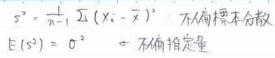
小標本時性:れの大きでに関わりなくも、かるべき特性。

(不偏性, 有如性, 最良, 绿形, 不偏性)

大標本特性: n n 大土(切, ていくときも, ているべき特性 (漸近的特性) (漸近的不偏性, - 教性, 漸近的有効性)

(1) 不偏性

のが過大・過小指定でないこと 、
$$E(6) = 0$$
 不備推定量 ex) $E(\overline{x}) = M$ (of 5-1(2)) $E(\widehat{x}) = \frac{m-1}{n} \sigma^2 = \sigma^2 - \frac{1}{n} \sigma^2 = \sigma^2 - \frac{1}$

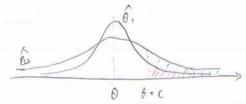




標本モードかでも不倫――別の基準も又要

(2) 有効性

不倫特定量 6., 6., var(6.) < var(6.)



外が値をとる確率が CaBN / ti

かっちか望まい.

- あらゆる不偏相定量の中で分散最小の推定量:有効推定量 or最小分散不偏推定量 ×へハ(ル,の)のとき、|×はハ·有効推定量 5 tt 02

しもな核い条件

(3)最良線形不備性

E(x) = M, Var(x) = 0

公= □ W.X. は M, 不确指定量 (で13で)

 $E(\hat{\omega}) = E\left(\sum \omega_i \chi_{\hat{\alpha}}\right) = \sum \omega_i E(\chi_{\hat{\alpha}}) = M \sum \omega_i \qquad : \quad \sum \omega_i = 1 \text{ with } U_i U_i = 1$

ルの任意の發形不偏推定量分の中で最小分散 = 最良線形不偏推定量

(Swi=1)

bost linear unbinsed estimator (BLUE) $\hat{\omega} - E(\hat{\omega}) = \hat{\omega} - \omega = \sum w_i x_i - \omega = \sum w_i (x_i - \omega) \quad (\cdot, \sum w_i = 1)$

 $Vor(\widehat{\omega}) = E[\widehat{\omega} - m)^2 = E[\sum w_i(x_i - m)]^2 = E[\sum \sum w_i w_i (x_i - m)(x_i - m)]$

「朝の宝衣 = Wi³ E(Xi-N)³)= o² IWi² ~ こいって最小にたい (を E(Xi-N)[Xi-N) = cov(Xi,Xi) = o) (知立て仮定)

a ラグランジュ関射

都合のではかでかくまかとした

$$\int \frac{\partial \phi}{\partial w_{\lambda}} = 2w_{\lambda} - 2\beta = 0 \quad (\text{for } \forall \lambda)$$

$$\frac{\partial \phi}{\partial \lambda} = -2(\Sigma w_{\lambda} - 1) = 0$$

.. WI = W. = = In => Jot & IN BLUE

(4) - 致性

- 致性 大きされの標本からの推定量: ôn マモンのに対して、nhm P(162-01 ≥ モ) = 0 : 一致推定量 点 確率収束 (cf 4.2 大数の言記り)

十分条件: lim E(du) = 0 (連行的不偏性) x> lim var(du) = 0

ez) F(x)= M, var(x) = 0 - x 13 Ma - 致拍定量 I'm (6) = 62, line var (62) = line 2/11-17 04 = 0

! 合口 o2n一致拍定量 , S2+ O2n一致拍定量

6/4 6.3. 区間推定

ハラ×-タが存在すると予想される区間を確率的に推定

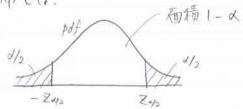
1 「日か区間[01.00]に存在了確率かり一く」でう推定

:. P(0,≤0≤0≥)=1-× 信賴係数(有意水準) 区間[01,01] - 100(1-4) 小精膜区間

一の日を国内に含むもつの害)合かリーム

○ ダ 01,0312実験で毎回変ある。そので問い合まれる確率が1-以

標準正規分布では、



(1)平均15関33推定

- ◎標本平均の分布(付5.4:標本平均の分布のすてXの表)
- ①(0°既知,安集用分布:正规分介,n:大)

。区間推定

P(-zn) = z = zn) = 1-d 限界誤差 P(x-zn) = x = x = x + zn) = 1-d 上下限の差 区間内局 2 zn/sn

区間幅ルルセッけで又の推定精度八上かる

- ・ひかかせいまで
- ・れが大きいはで(一限界誤差D=2の無が所ちなられるをか)))
- ・241 へ小さいほど(信頼良け低下)

3. Ø 11 0 → S n 10"H

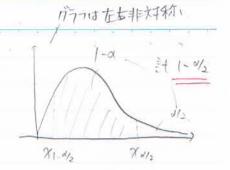
A toh o→s, Zob→ tolon-1)

er) x ... , x 5 ~ N(M,002)

文=19.5を観測 ルの99小。信頼と問?

d=0,001, 74b= 5.576, n=5, 0=0.2

X 1 21, 5 = 1915 ± 2.576. 0.2 = 19.5 1 0.2304



$$\left| \begin{array}{c} \left(\frac{(n-1)S^2}{\chi^2 \alpha/2} \right) \right| \leq \left| \left(\frac{n}{2} \right) \right| \leq \left| \left(\frac{(n-1)S^2}{\chi^2} \right) \right| \leq \left| \left(\frac{n}{2} \right$$

(3) (七率へ区間推定 (かまけ)

大车

多7 仮說棒定

久1. 検定。芳山方

母集団にいてが廃土れた命題を標本に基がいて検証

包集团 一標本

仮説日・日かる者してはずれる→日を否定する(桑むする) ・日から着してはずれない→日を認以る(採択する) 有意水準はによって判断

ex) /原語:「地球温暖化が進行」

観測:「18年間連続で異常高温の続いている」

ここでの異常、「たかだか 30年に1度の頻度」

今对立了3板說:「地球平均有温坡定常」

一 ま3年に「異常気湿」が生じる確率 1/30

各年の気温けが出立て何定

→ P= 1/30. N=18 a=項合布 f(x) = n(x | 2 (1-P) = 18 (18 (1/30) (1-1/30) - 2.58 × 10-27 解釈

- Q 観測事象は稀ではなく、誤った前提により稀日確率が計算なん
- ③:非常に稀だか全く起こりなないわけではない事実が起こった。

仮定の有意性の検証-仮説検定

(1) 旅說の設定 6 三九八月

- (2) 核定統計量とその分布の決定
- (3) 东意水準、棄却域《沃定
- (4) 検定、実施

\$1.3.15.11c

ex) 国历散跃知の正規分布からの小標本に対する検定(cf 5i4の②)

新製品·寿命のメーカー公称値: 9hour

1日製的 M=8hour, O=1hour ~正規分布

新製品で10回実験 -7 21=10, 至=8.8

(1) 旅铁, 铁定

あけたことをあってもほだ

新製品も旧製品ルータを同じではないかと! チンれを検証

Ho: U=8 熔螺板镜

データがHoから着しく外れたとものみHoを棄却

H1· 478 対立仮説

	Home	H. 13 == 1
Hoを棄むPしない	0	3
けるを棄むする	Q	9

①,田日正山粮証

图 Ho は正い、→ Ho 棄却:第1種の過誤图 Ho は誤り→ Ho 採状:第1種の過誤

上記では、ヨシリョ温族を大きな誤りて考える。 个背理法 9方式(桑却村32220日的) Ho採択でも、積極的に対きしたわけではなく「猪はしない」だけ

(2) 校定統計量でその分布の決定 儿·包·指定量:又一种定下电又图(1) 模定統計量 n=1, 02张知 又Mu, 型) (of 6.3(11) (でもわならせがあ)

411

- @ 横定。流れ
 - (1) 依競,設定
 - (2) 検定統計量とそり分布の決定
 - (3)有意水準、棄却域の決定
 - (4) 檢定の実施

今日1日2、015.

これを発却したいく (1) 依競の設定 "隔無仮説 Ho: N=8, 对立仮説," N>8

(2) 検定統計量とその分布

検定統計量:マヘル/ル,祭)

(3) 有意水準と棄却域の決定 又の値が8F走みえ大きいはど、Hou 18を棄却な証拠し Hoを棄却すべき又の領域:棄却域R 11

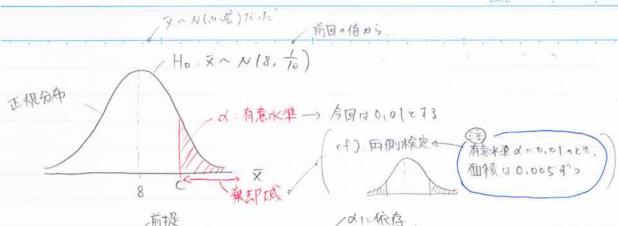
Xがある値(を越える領域 R={x; ×>c} + 片侧横定

(cf R= { x; |x| >c }: 両側検定 (H,: ル+8))

Hoを棄却 ~ データかHoから著しくはずれる。 (0:05 × 0:01 か 為:1)

きわめて小さな確率又でしか生じない

有意水準



前提 P(又>c | Ho 正しい) = 0.01 とかるでを計算 $Z = \frac{\overline{y} - 8}{1/\sqrt{16}} \sim \mathcal{N}(0, 1) \qquad \text{i. } p\left(\overline{z} > \frac{c - 8}{1/\sqrt{16}}\right) = 0.01 \qquad \left(\overline{z} > \overline{Z}_{0.01}\right)$

標準正規分布 n 右片側 0,01 n 確率 飞考之3. 20,0,= 2,326 $Z = \frac{c-8}{1455} = 2.326$ " c = 8.74· 奔却域 P = {x; x > 8.74} 一 柔却域心决乱た!!

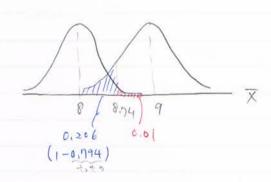
実際、データから行う (4) 模定 9 实施 「Xep⇒Ho棄却 (H,採択) マキトコ Ho暴和しない

今日11、 文=8.8 CR 1文; X>8,74) 与有意水準 1·1, で Hi ル=8は棄却 th3. (一た)

P(Z= 88-8) = 0.0059 P/A 新規を変えてみる。 HIを帰無依談けてしてみる。

P(X > 8.74 | H. Elin (13/hit/11=9233)) = P(Z > 0.74-9) = 0,794

。過誤にかれて



第1種の過誤り確率

P(I) = P(X >8,74 | M= 8) = 0,01 = d P(I) = P(X = 8.74 | N = 9) = 0,206 = B メモルセベレたい => Bは大きくなる (dをのは同時に小せくできない) ·第I種。過誤。危険→小 →第11種、過誤、危険→大 以 有意水準 二危険率

1-13: 株出力

Howistioをいるときしませんと桑却できる研学

クユ 母平均・検定

クリの通りにやってく

(1) 仮説の設定

(A) Ho: N= No, Hi: ルキ No → 両側検定
 (B) Ho: N= No, Hi: N> No → 右片側/検定

(c) Ho M=No, H, M<No → 左片則検定

(2) 檢定統計量で分布

5.4.「標本平均の分布のまとめ」の表で分類

(b) ④ t=×-4 ~t(n-1) ◆ t模定 中的機

(3) 垂却城

*1	а	Ь
A	ZI > Z4/2	1t1 > ta/2 (n-1)
₿	Z> Z0	t > ta (n-1)
C	さく- Zx	t < - tx (m-1)

七分布 付 正规分布、同性左右打新 (するかちかと重い)

久3 正規分の日分散の検定

(1) 仮說

(B) Ho: 02=00, H, 02>00 or 02=00 一右規則検定

(c) Ho: O2-002, H, O2<002 or O2=062 → 左片側接定

(2) 横定統計量 と分布

$$Q_{\chi_{s}} = \sum \frac{(\chi_{s} - \bar{\chi})_{s}}{Q_{0}r} = \frac{(w-1)s^{s}}{Q_{0}s} \sim \chi_{s}(w-1) \qquad \Phi \quad \chi_{s} \not= 0$$

(3) 茶却成 (cf. 6.3(2)) パークラフは指却がしゃないのでこんな書き方になる

A : x2 < x1-1 , x > x/2

B 72 > 72

c: 2 < 71-0

ex).正规的Ax版定Ltitox本部に正規的Ax

- × . 9. 検定 1 遺合度検定にも用いられる
- 义 母分散。比。横定 → 下横定 母子均。差。族定→ t族定

(d'77)

空間情報学でも使っる

S8 回帰分析

8.1.回帰モデル

2 变数: X, Y

Yn変動をXで説明:XrYn定量的な関係(モデル)を知りたい

[X:説明变数,独立变数 -横軸mm,

Y: 被説明变数, 従属变数

← 総軸 //

ex). Yi ばねa長さ、X: おもりの重さ



Y = Bo + B. X + 8 + 1 1 1 1 1 1 1 1

日帰式如直線 917.線形目潭

B., B. 国偏係数, E. 誤差項

説明変数 1つ:単純回帰モデル 複数:重回帰モデル

最も簡単なもの 。 (線形)単純回帰モデル

Yi = Bo + B, Xi + Ei (Bo, B, : 1, 7x-9)

极定

cf). コロケーション (メモ破率家飲)

〈メへの何定〉

① X は非確率変数

くをへの仮定)

- ② 分散- 定: Var(を:) = E(を:) = 5 / (:1,1,1,1)
- ② 異なる言長寿頃は無相関 (実分散の): cov(をx,をs)= E(をxをs)= (i+j, xij=1, 2, n)
- 图 台口正規分布

誤差の諸要因 fal, fal,

- 8x = 8x1+8x1+

中心極限定理かり、そんは正規分布

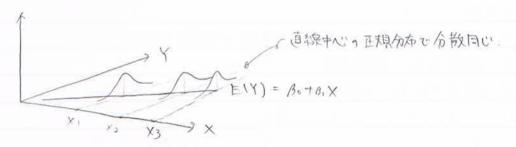
Q~ Q \$11 8: ~ N (6,0)

22 to. E(Yi) = Bo+B1×i (0, (to))

· Yi= E(Yi)+ 8i ← Yin 平均的 な大きも十誤差

$$\operatorname{Vor}(Y_{\hat{n}}) = \mathbb{E}[Y_{\hat{n}} - \mathbb{E}(Y_{\hat{n}})]^2 = \mathbb{E}(\xi_{\hat{n}}^2) = \operatorname{Vor}(\xi_{\hat{n}}) = \sigma^2 \quad (2 + 1)$$

 $cov(Y_i, Y_i) = E[(Y_i - E(Y_i))(Y_i - E(Y_i))] = EiE_i = o (图 $11))$ JX 上 N S, foca fx = 5



。目的.

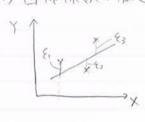
6/18

刮儿二年·法

- ①未知パラメータ Bo, B., Oを推定
- ② モデルの説明力の確認
- ③ 推定量の統計的推測

一次白

8.2. 最小二乗法 (1) 阿帰係数。推定



をi= Yi- (Bo+ B) Xi) 全計正にする 誤差の二乗和を最小にしたい。

숙한 EN 3 3 (f). GLS

 $\Sigma \xi_{i}^{2} = \sum_{i} Y_{i} - (\beta_{0} + \beta_{i} \times \lambda_{i}) \Big|^{2} \longrightarrow \min :$ $\frac{\partial \Sigma \xi_{i}^{2}}{\partial \beta_{0}} = -2 \Sigma (Y_{i} - \beta_{0} - \beta_{i} \times \lambda_{i}) = 0$ $\frac{\partial \Sigma \xi_{i}^{2}}{\partial \beta_{0}} = -2 \Sigma (Y_{i} - \beta_{0} - \beta_{i} \times \lambda_{i}) \cdot \chi_{i} = 0$

 $\hat{\beta}_{i} = \frac{\Sigma(\hat{x}_{i} - \hat{x}_{i})(\hat{y}_{i} - \hat{y}_{i})}{\Sigma(\hat{x}_{i} - \hat{x}_{i})^{2}}, \quad \hat{\beta}_{i} = \hat{y} - \hat{\beta}_{i} \hat{x}_{i}$

最小二来相定量

ディー A·+ B·×i データ×iからYiを指測は式

Qi=Yi-Ŷi=Yi-·-·Xi: 残差 +課意知

 $\Sigma e_{\lambda} = 0$, $\Sigma e_{\lambda} \times \lambda = 0$ = $(2\pi i \times \lambda = 0)$

E(含。)= β。, E(含)=β。 → 不偏推定量

现由口省略

 $Var(\hat{g_0}) = \frac{\sigma^2 \sum x_1^2}{N \sum (x_2 - \overline{x})^2}$, $Var(\hat{g_1}) = \frac{\sigma^2}{\sum (x_2 - \overline{x})^2}$ σ_0^2 σ_0^2

※ 最小二乗推定量は、BLUE (cf 6.2)

1、25で何欠けの2. 誤差の分散を残差の分散が3相定する

 $S^2 = \frac{\Sigma e_i^2}{n-2}$ $\Sigma e_i = \Sigma (Y_i - \hat{\beta}_0 - \hat{\beta}_1 X_i) = 0$ $= \frac{3\Sigma \epsilon_i^2}{360} = 0$ から 字かる $\sum_{i=1}^{n} G_{i} \times Y_{i} = \sum_{i=1}^{n} (X_{i} - \hat{g}_{i} - \hat{g}_{i} \times Y_{i}) X_{i} = 0 \quad \text{and} \quad \frac{\partial g_{i}}{\partial g_{i}} = 0$

上記207年11新1二岁、7、自由度は2減る

一般的 i= iz, データ数 ii, 句像像数(パラメータ) n数P -> 自由度 n-P

(付成だ去)

(3) 最大推定量での関係

/阪定まりを:へ N(0, 5°) , Yildをiの線形関数, 19一分散

Y: ~ N(Bo+B,X;, 02) ~ (P.210回)
Y:, , , Yn o pdf (据李宝厦関数)(1)

(21102) = exp - - 102 エ(Yi-Bo-Bixi) = L/B·, B·, 02) + 方房関数

対数とって考れて、

 $\begin{cases} \frac{\partial J_{00}L}{\partial \rho_{0}} = \frac{1}{\sigma^{2}} \Sigma \left(Y_{i} - \rho_{0} - \rho_{1} \times i \right) = 0 \\ \frac{\partial J_{00}L}{\partial \rho_{0}} = \frac{1}{\sigma^{2}} \Sigma \left(Y_{i} - \rho_{0} - \rho_{1} \times i \right) \times i = 0 \end{cases}$ $\begin{cases} \frac{\partial J_{00}L}{\partial \rho_{0}} = \frac{1}{\sigma^{2}} \Sigma \left(Y_{i} - \rho_{0} - \rho_{1} \times i \right) \times i = 0 \\ \frac{\partial J_{00}L}{\partial \rho_{0}} = -\frac{1}{\sigma^{2}} + \frac{1}{2\sigma^{4}} \Sigma \left(Y_{i} - \rho_{0} - \rho_{1} \times i \right) = 0 \end{cases}$ $\begin{cases} \frac{\partial J_{00}L}{\partial \rho_{0}} = \frac{1}{\sigma^{2}} \Sigma \left(Y_{i} - \rho_{0} - \rho_{1} \times i \right) \times i = 0 \\ \frac{\partial J_{00}L}{\partial \rho_{0}} = -\frac{1}{\sigma^{2}} + \frac{1}{2\sigma^{4}} \Sigma \left(Y_{i} - \rho_{0} - \rho_{1} \times i \right) = 0 \end{cases}$ $\begin{cases} \frac{\partial J_{00}L}{\partial \rho_{0}} = \frac{1}{\sigma^{2}} \Sigma \left(Y_{i} - \rho_{0} - \rho_{1} \times i \right) \times i = 0 \\ \frac{\partial J_{00}L}{\partial \rho_{0}} = -\frac{1}{\sigma^{2}} \Sigma \left(Y_{i} - \rho_{0} - \rho_{1} \times i \right) = 0 \end{cases}$ $\begin{cases} \frac{\partial J_{00}L}{\partial \rho_{0}} = \frac{1}{\sigma^{2}} \Sigma \left(Y_{i} - \rho_{0} - \rho_{1} \times i \right) \times i = 0 \\ \frac{\partial J_{00}L}{\partial \rho_{0}} = -\frac{1}{\sigma^{2}} \Sigma \left(Y_{i} - \rho_{0} - \rho_{1} \times i \right) \times i = 0 \end{cases}$

(Bou = Bo, Biu = B, Ou = Th Ie:)
(Bou = Bo, Biu = B, Ou = Th Ie:)

そうが正規局あて、1万仮定のもとでは、 30, 31の最大指定量で最小二乗指定量 は一致(分散は果なる)

```
A.3 モデルの説明力
```

×が Yをどり程度説明できるか → 回帰モデルの当てはまりのよさ、

こって、 麻着 ei= Yi- ディーター Yi= ディ+ ei あめから デラリーて、

Yi- マ = ダー + ei この2条和をとると、

I(Yi-Y)' = I(Yi-Y)' + Iei' + DI(Yi-Y)ei

 $(右の第3項) = \sum (\hat{\chi} - \bar{\chi})e_{\lambda} = \sum \hat{\chi} \cdot e_{\lambda} (\cdot, \sum \bar{\chi} \cdot e_{\lambda} = \bar{\chi} \cdot \sum e_{\lambda} = \bar{\chi})$

= \(\int (\hat{\theta} + \hat{\theta} \) \(\text{i} \) \(\text

1. I (/ y - A) = I (/ y - A) + I 6 15

全変動 モデルにお説明 所差平方和 全変動をモデルでどれるい説明できない。 説明カの尺度 = 決定係数 $Y^2 = \frac{\sum (\hat{Y}_1 - \bar{Y}_1)^2}{\sum (\hat{Y}_1 - \bar{Y}_1)^2} = 1 - \frac{\sum e^2}{\sum (\hat{Y}_1 - \bar{Y}_1)^2} = 9 \times \varphi$ 《相関係数》

0 = r2 = 1

1=107= Zei=0 = Xi = Yi $f^2 = 0$ are, $\Sigma (\hat{Y}_i - \bar{Y})^2 = 0 \Rightarrow \hat{Y}_i = \bar{Y}$

名パラメータ×ネのカがでれぞれでっといけるか

8.4 统計的推測1

. BO ~ N (Bo, NOV (BO)), B. ~ N (BI, VAY (BI))

のまね つ らこ 気をごであるかれる。

 \hat{S}_{α} , \hat{S}_{α} の分散の不偏相定量は、 $\hat{S}_{\alpha}^{*} = \frac{\hat{S}_{\alpha}^{*} \hat{\Sigma}_{\alpha} \hat{\Sigma}_{\alpha}^{*}}{n \hat{\Sigma}_{\alpha}^{*} (\hat{X}_{\alpha} - \hat{X}_{\alpha}^{*})^{*}}$ $\hat{S}_{\alpha}^{*} = \frac{\hat{S}_{\alpha}^{*} \hat{\Sigma}_{\alpha}^{*} \hat{\Sigma}_{\alpha}^{*}}{n \hat{\Sigma}_{\alpha}^{*} (\hat{X}_{\alpha} - \hat{X}_{\alpha}^{*})^{*}}$

母皇团正相的, 5°种品 的

ころの、あを標準化したものは、自由度か-2のも分布になる

 $t_0 = \frac{\hat{\beta}_0 - \beta_0}{S\hat{\beta}_0} \sim t(n-2), \quad t_1 = \frac{\hat{\beta}_1 - \beta_1}{S\hat{\beta}_0} \sim t(n-2)$ (Ho: $\hat{\beta}_0 = 0$ ETSILIN Fr.)

⇒ パラ×-タに対する区間推定(付6.3) + 仮該検定(付り)が可能

8.5 重回帰モデル

線形回帰モサル

Xi = Bo + B, Xi, + B= Xi2 + ... + B+ Xig + 8;

4 97751=13

$$\emptyset = \begin{bmatrix} Y_1 \\ Y_2 \end{bmatrix}, \quad \chi = \begin{bmatrix} 1 & \chi_{11} & \chi_{12} \\ \vdots & \vdots & \vdots \\ 1 & \chi_{N1} & \chi_{N2} \end{bmatrix}, \quad \beta = \begin{bmatrix} \rho_0 \\ \vdots \\ \rho_0 \end{bmatrix}, \quad \xi = \begin{bmatrix} e_1 \\ \vdots \\ e_n \end{bmatrix} \quad \text{cfgr},$$

4 = XB+ €

おくべき 15定は 8.1 と同じ、ただし、そ~ハ(0,0°I) 最小二乗法 8/8 → min : 38/8 = 0. 単的例

 $\rightarrow \hat{\beta} = (\hat{x} \times \hat{y}) \xrightarrow{AA} (\hat{y}) \xrightarrow{AA} (\hat{y}) = \hat{\sigma}^{1}(\hat{x} \times \hat{y})$

残差: @= 11-×8

一般に重回帰式、方が決定係数高、(説明力が上がる)が、自時が減少 する下的不偏分散が大きくなり回帰直線、汎化性が低下する。 Akaike Information Conferin 前的变数,数场以下モデル,决定与情報量規準(AIC)

王曲日 西山东生

6/15 会9時新門解析(中西な) → つかト

ン降雨量,標高などと1×-ち 到0空間データの統計解析

· × (\$")

X(\$1) ~ X(\$←) は跃灰

未知点XFの値を予測したり

観測1値×(ま)かる、に独立 → ×c の予測1/値はM

● 画常は独立ではなく、近い所はで近い値を持つ傾向 = 空間相関 空間相関を参慮し、よりよい予測値をおよる。アプローチは2つ、

了。空間計量經濟學(10.2)

。空間統計学,1世球統計学(10.3,10.4)

DATE

就旅机的女

10.1. 一般化最小二聚法

p 重回帰俗析(f.8.5): 通常最小無法 (ordinary least squares: OLS)

誤差項において空間相関で考慮:一般化最小二東法 (generalized least squares · GLS)

。線形回帰モデル

1) = XB+ E

/ 细目烯、杨定が七や異なる

. /友宇

共分散なし、

O E(\$)= 0 + 2417- 6%

3 F(84') = V = 0° 12

(f) OLS: \$ ~ N(0, 0 1)

□:正确定符号行列 白 ∀双 , 双□双>0

③ 4: 为变量正规分布 - 一部 单位的31

□Qは正値定符号行列だから、PQP'= 1 かるPか存在 (□Q"=P'P)

PH = PXB+PE & PNITETIT

220 E(P4) = 0, vor (P4) = E(P44'P) = 02 I & OLS \$5/E!

· PY 主被說明英數, PX 主說明要數 nt OLS で推定可能

BG = [(PX)'(PX)] (PX)' PY = (x'p'PX) x'p'PY P.2977 / 1 = P'P

= 4(x, v, x), x, v, 0, 0 (= (x, A, x), x, A, A)) e A= 6,0

平均と分散。

Be = (x' \(\sigma^{-1} \times)^{-1} \times' \sigma^{-1} \) (\(\times \B + \x' \) = \(\B + \x' \sigma^{-1} \x' \) \(\sigma^{-1} \x' \)

E/Bg) = E/B) = B (: E(\$)=0)

var (&G) = 02 (x'_2-1x)-1 = (x' v -1x)-1 - Anticition

Se = (0- x 86) (0) (8- x86) OLSE a 1 = 1 = 1

▼(or 1) が定義できれば、空間相関で考慮したモデルができる この定義の行らかアプローチャ違いとなる。

存在だけ知ってからう

```
10.2. 空間自己回帰モデル
```

誤表項をモデル化することにより、間接的に▼をモデル化

キョリト問数

= XB + W

ex). W = [was] = [dis

7·徐敏, W: 空間拿升行到

(12 to 1) if 173) crov composent model

Var (41) = 7 = 0° 12

)と仮定

vov(4) = 0 I

U1 = (I - 7W)-18

· V = E (WW') = 0° [(I-7w)(I-7w)]-1

これを用いてGLSによりパラメータ指定

/0.3 確對易 定常性

· 位置に依存した確率変数

位置まEP1に対いて確率変数を(ま)が対応

(2(\$)=\$E|P2):確率場 o cf) 確率過程 (89)

統計解析のための又(ま)への板定:定常性

の強定常 よずけ程度

同時份布開数 Fst, sh (2(\$1), --, 2(\$n)) とする。

¥\$., -, \$n, h(ep²) 1=≠++12

Fr. & (7(\$1, 2(\$n)) = Ft.+h, ..., tn+k (8(\$1), ..., 2(tn))

・と(ま)の分布関数は任意の位置すて同じ

· 区(生), --- 区(生) 与同時分布関数は、位置を展りみに依存

強定常: 台あきゃもかについての仮定

通常F41, 如日赤知一人仮定之中3×3(新院常)を大事

。2次定常性

E[81\$)] = M

cov [2(\$i), 2(\$i)] = c(\$i-\$j) = c(K)

は、点もよ、むの相対的位置(ベクトル)

c(M) 共分散関数=コベリオグラ4

さらに簡単にしてい

```
。 等方的 2次定常性
```

C(h)を定義 → V(or a) が定義できる。 →次

· 任意の位置の理商者を調べようとした

(1)一般的对于澳生

もりつ 間かり 持つもかれた

(2) 誤差項 7 浮測)

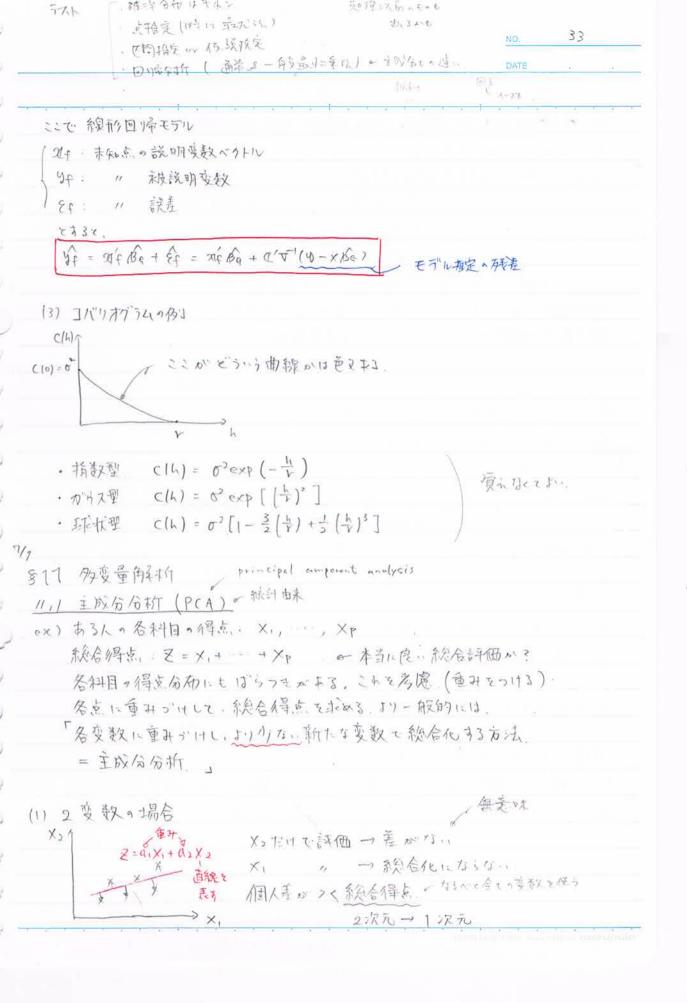
空間相関を誤差項で方よる。一未知点の成差を既知点の残差で子測」

重升力主车均

誤差×予測1残差《差》最小とする重升 [(分名を分)

 $E[(\xi_1 - \xi_2)^2] = E(\xi_1^2) - 2E(\xi_1 - \xi_1^2) + E(\xi_2^2)$

 $\frac{1}{\sqrt{D}} = \frac{1}{\sqrt{D}} = -\frac{1}{\sqrt{D}} = -\frac$ IX E 11).



朝を変換したとき、その軸上での値の分散が最大になる軸を求める

マ=ロ、な、+ロングを考れる。 (1,α2 a (標本)分散共分散行列 (S11 S12) ママを考らる

Var(z)= 1 (区 - 豆) * を標本からと、こうって、自晦してあちる

= 1 I } (0, 71, + 0=7=1) - (0, 71+0=7)) }

 $= \frac{1}{\eta_{-1}} \sum_{i} \left\{ \alpha_{i}^{2} \left[\chi_{1,i} - \overline{\chi}_{1} \right]^{2} + 2\alpha_{1} Q_{2} \left(\chi_{1,i} - \overline{\chi}_{1} \right) \left(\chi_{2,i} - \overline{\chi}_{2} \right) + Q_{2}^{2} \left[\chi_{2,i} - \overline{\chi}_{2} \right]^{2} \right\}$

= 0,3 S11 + 2010, S12 + 0,2 S22 - PAXTE CTEN

例約条件: ai+ai=1 (式自体にイミはないが、付り取りないと Var(を)無限に大きくできる) 制約条件のき最大化→ラグランジュの未定乗数法

 $f(0,0,0,\lambda) = 0.2S_1 + 20.02S_1 + 0.2S_2 - 7(0.240.2-1)$

估11的条件

 $\frac{\partial f}{\partial a_1} = 2a_1S_1 + 2a_2S_{12} - 2a_1\lambda = 0$

 $\frac{3+}{30} = 0^{1} + 0^{2} - 1 = 0$ $\frac{3+}{30} = 0^{1} + 0^{2} - 1 = 0$

上 2 式 か > . $\begin{pmatrix} S_{11} & S_{12} \\ S_{21} & S_{22} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} = \lambda \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} = 固有植問題になる$

ころ、固有値、(こ)、固有べつトルを表す

$$\left(\begin{array}{c} S_{11} & S_{12} \\ S_{21} & S_{22} \end{array} \right) \left(\begin{array}{c} 0 & 1 \\ 0 & 2 \end{array} \right) = \left(\begin{array}{c} \lambda & 0 \\ 0 & \lambda \end{array} \right) \left(\begin{array}{c} \alpha_1 \\ 0 & 2 \end{array} \right) \not \succeq _1 \left(\begin{array}{c} S_{11} - \lambda & S_{12} \\ S_{21} & S_{22} - \lambda \end{array} \right) \left(\begin{array}{c} \alpha_1 \\ \alpha_2 \end{array} \right) = \left(\begin{array}{c} O \\ O \end{array} \right)$$

a1= a2=01/9トの解を持った以には、

$$\begin{vmatrix} S_{11} - \lambda & S_{12} \\ S_{21} & S_{22} - \lambda \end{vmatrix} = 0 \qquad |A| = \frac{(S_{11} + S_{22}) \pm \sqrt{(S_{11} - S_{22})^{2} + 4S_{12}^{2}}}{2}$$

$$\lambda > \lambda_{2} \times \lambda_{3} \times \alpha_{111} = \frac{S_{12}}{\sqrt{S_{12}^{2} + (\lambda_{1} - S_{11})^{2}}}, \quad \alpha_{211} = \frac{\lambda_{1} - S_{11}}{\sqrt{S_{12}^{2} + (\lambda_{1} - S_{11})^{2}}}$$

$$\lambda > \lambda_{2} \times \lambda_{3} \times \alpha_{111} = \frac{S_{12}}{\sqrt{S_{12}^{2} + (\lambda_{1} - S_{11})^{2}}}, \quad \alpha_{211} = \frac{\lambda_{1} - S_{11}}{\sqrt{S_{12}^{2} + (\lambda_{1} - S_{11})^{2}}}$$

局待に カーカン → O1127、 a212) x まとする

新しい軸 で、第7主成分、では第2主成分 ~ 国有ベクトルは直交(数分字的いは回転)し Z1 = a1111 X1 + a2111 X2 : 主於分得点。 (221345する)

一对角化 固有值問題 $\begin{pmatrix} \Sigma^{12} & \Sigma^{23} \\ \Sigma^{14} & \Sigma^{15} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0^3 \\ 0^4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & y^3 \\ y^4 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0^+ \\ 0^+ \end{pmatrix}$

cf) 271最小二東法

分育又共分散行列。対南化→といてこは無相関

外理を簡単にする

二主が分分析:相関のあるデータを無相関のデータで変換

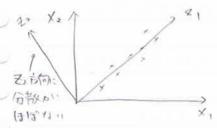
・マ、で原体をごれだけ表現できるか

Z, 軸上,分散 7, Z, 軸上,分散: 72

高与率(第7主成分) 司子方。

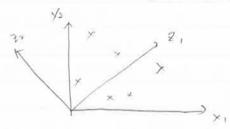
→ 「〇:天中下」一夕の違いを十分に表現

できていない



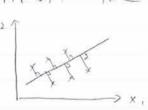
写9季(人)





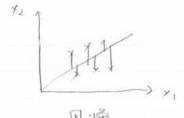
寄与率 (17)

。回帰分析との相違



主成分 XI CX. 同等

一主が分へのキョリ



国中

メリマーメンを 美質日月

一人物上での差

DATE

(2) 外変数の場合

 $Z = a_1 \chi_1 + \cdots + a_p \chi_p$ $Var(z) = \frac{1}{n-1} Z da_1 (\chi_1 - \bar{\chi}_1) + \cdots + a_p (\bar{\chi}_{p_1} - \bar{\chi}_p) d^2 - \frac{1}{2} \sum_k S_k a_i a_k$ 樹納絲 $a_1^2 + \cdots + 0p^2 = 1$

ラグランジェの報乗製法から、

$$\begin{pmatrix} S_{11} - S_{1}r \\ \vdots \\ S_{P1} - S_{PP} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \alpha_1 \\ \vdots \\ \alpha_r \end{pmatrix} = \lambda \begin{pmatrix} \alpha_1 \\ \vdots \\ \alpha_r \end{pmatrix}$$

: 国有値問題を解く (対南化)

1/2、因子分本ケーへ、理学由来、されりだけ

P 変数の測定値,データ数:外

カンP+1ならば、最大限Pコの主版あか得られる

第1主成分の寄与率が著しく大きて、第2主成分以下の寄与率が但でなることが望まれる

しかしこかはきわめてまれ 一の主成分をいくうで止みたらよいか?

そこで、寄与率の小さい主成分は誤差が分でしてまなめ、できる限り少数の意味する主成分を得ることを考える。

複数 x1, 、, xp、主放布 こZ, , 、, Zr さして、次のモデルを考える

(主教的で全く道!!)

ap = ap1 2,+ -- + ap1 2v + 8p

主成分を一 因子がれてけ、芸通因子ではかい

EF37 TXLP

x = 0, f, + - + 0, f, + & (j=1, ... +)

20の変動をいくつかの共通因子の加重和に分解。

Out 变数 19 共通图子 9 影響度合 = 因于负荷量

€1:誤差=独自因子.

複数の変数からかるデータを少数の共通因子を使い表現し、データが現れる仕組みのモデルを見つけ出す方法、二因子分析(因子負荷量を共通因子の値を求する)

ですり主成分:与えられた英数を合成して全体の変重力をかるかべり数の主成分で、説明因子合析:末3変数の共通変動のみをいくつかの因子に分解

